

公民館ロビーの変容に関する実証的研究

日大生産工（院） ○勝又 啓太 日大生産工 浅野 平八

1. 研究の目的と方法

コミュニティ学習センター（CLC：Community Learning Centers）の設置が進められており、東南アジアを中心に太平洋諸国から公民館への関心が高まってきている。公民館は地域的個別解として展開しており、画一的な施設像は形成されていない。拡散した現代の施設機能や特徴的施設空間を再確認し、提示しておくことが今後の展開のためには重要であるとする。

本研究は公民館の特徴の一つであるロビー空間に着目する。公民館の諸室はその名称から使われ方が想像できる一方、ロビー空間は定められた行為を行うといった要素は無く、極めて自由度が高い。そこに施設の持っている様相¹が表出する。そこでロビー空間に関わる備品と行為について検証する。このことから現代公民館のロビー像を明らかにすることが本論の目的である。

2. 分析の概要

写真データからロビー内の動作空間²を抽出する。これらを公民館の発展過程第Ⅰ期・第Ⅱ期・第Ⅲ期に分けて検証することでロビー空間の変容過程を明らかにする。次に、動作空間の関連図を作成し、ロビー空間の実態を明らかにする。

分析は写真データから備品と行為を読み取り、動作空間を目視から抽出する。対象は、公民館的施設を含む(全国30市区町村91施設)と注³に示す文献から抽出する。

3. ロビー空間の変容

3-1 公民館の発展過程

参考文献³から、公民館の発展過程を国の指針

を示す法令によって大きく分けると以下のようである。

1946年に全国で初めて公民館が設置されて以来、今日に至るまで約18,000館の公立公民館が存在する。その背景には、1949年に制定された社会教育法がある。公民館の地域定着を促し、設置が進んだ。(第Ⅰ期・1946～1968)

その後、1969年にコミュニティ施策⁴が始まり、1970年以降都市部において教育機関としての公民館が発展する。(第Ⅱ期・1969～1983)

1984年に臨教審答申による生涯学習への移行から、現代課題に応える事業展開が新たな枠組みとして広がった。また、小学校を始めとして、様々な行政との連携も見られ現在に至っている。(第Ⅲ期・1984～2009)

この時代区分ごとに、収集事例を分析する。

3-2 第Ⅰ期（1946～1968）

ロビー空間の特徴は、施設入口から諸室に直接つながる。主にホールや講堂の正面に位置しており、エントランスホールのような形態である。文献注³から読み取った動作空間を表1に示す。

表1 第Ⅰ期で見られる主な動作空間での行為

備品①	イス・ベンチ
行為①	短時間での休憩

第Ⅰ期では、ロビー空間の面積規模は比較的小さく、廊下の延長上とみられる。ロビーとしての計画はほとんどされておらず、入り口付近にホールや講堂が配置されている。施設利用者は主にホールや講堂での集会を主目的とし、ロビー空間は待合いや休憩ということに機能している。

3-3 第Ⅱ期（1969～1983）

ロビー空間の特徴は、面積規模が大きくなり、休憩以外の行為が見られる。活動を誘発する備品が置かれ、その代表的な備品に机やテーブルがある。事例写真から読み取った動作空間を表2に示す。

表2 第Ⅱ期で見られる主な動作空間での行為

備品①	机・テーブル・イス
備品②	机（テーブル）・コピー機・カッター
備品③	本（本棚）・学習机
行為①	テーブルとイス等を組み合わせて利用することで、打ち合わせや飲食など
行為②	コピー機やカッターの利用から軽作業
行為③	図書コーナーや学習コーナーを設置から小中学生が帰宅時に利用

ロビー空間の面積規模が大きくなっている要因として、イス・テーブル・ソファ等の家具が設置されていることがあげられる。これらの家具配置により、ゆとりある空間への変化が見られる。それに伴い、待ち合いや休憩といったことだけではなく、打ち合わせや簡単な作業、飲食等の交流の場として機能している。

また、この頃からロビー空間に図書コーナーや学習コーナーの設置が見られ、規模面積の広がった要因の一つに挙げられる。読書や自習など一人で施設を利用することが可能であり、利用者は子供から大人まで多岐にわたる。

このようにイスとテーブル等の組み合わせは、作業・交流・学習など様々な使い方をする基盤備品として、その後のロビー空間においても必要不可欠となり定着している。

大規模集会施設にあたっては、各階ごとや大空間の前室部分にロビー的空間があるものがある。このような空間は休憩等単純な機能である。

3-4 第Ⅲ期（1984～2009）

ロビー空間の特徴は、施設に入りやすいフリースペースや多目的ホールのような形態と変化する。飲食での交流から団体利用など、同じ空間に数多くのグループが存在し、多種多様な活動がみられる。写真から読み取った動作空間

を表3に示す。

表3 第Ⅲ期で見られる主な動作空間での行為

備品①	マット・畳・遊具・絵本
備品②	ステージ・音響機器・ピアノ
備品③	ピクチャーレール・展示用提示板・ショーウィンドウ・展示物
行為①	マットや畳を敷いて子供の遊び場として利用
行為②	コンサートや演劇の場として利用
行為③	ギャラリーとして用いられ、作品展示の場として利用

第Ⅲ期になると、面積規模は広く明るく開放的になる。それに伴いロビー空間も仕切るものを極力少なくして、フリースペースとした使い方に変化してきている。ここでは、子育て支援やギャラリーとして利用されるなど、私たちの生活課題・地域課題に対応した事業が展開されている。ロビーが目的空間となることは、施設自身の活性化にも影響を及ぼす。

このように公民館のロビー空間は、特定の目的を持たなくとも住民誰もが自由に出入りできる空間として重要であり、公民館ロビーは単にロビー空間としての機能の括りではなく、一つの目的空間として認識すべきものである。

4. 動作空間関連図

4-1 動作空間関連図の作成

3章で示した時代の変化に伴いロビー空間に求められる行為も多様性を帯びてきていることが分かる。

ロビー空間の計画が希薄な第Ⅰ期、個人利用から小集団での利用が伺えるようになった第Ⅱ期、これらをベースにして子育て支援やコンサートといった地域課題に根付いた取り組みを行うようになった第Ⅲ期と、ロビー空間は多機能性を持った空間に発展してきたことが分かる。これら動作空間の関連を動作空間関連図にまとめる。（図1：動作空間関連図参照）

動作空間関連図は、対象施設の写真をもとに、ロビー空間で実際に行われている機能と空間について機能領域と空間領域に分け、関係する行為と備品は、中心の点線を境目にしてほぼ上下対称の位置に配置している。

動作空間関連図の見方を「住民活動」を例にして以下の通りに示す。

- ① 機能領域より、住民活動に着目する。
- ② 「コピーをする」「工作をする」「作業する」等の項目があり、これらはロビー空間で見られる行為になる。
- ③ 中央を境目として空間領域より、住民活動に対応するゾーンを選択する。
(住民活動＝住民活動ゾーン)
- ④ 空間領域より、住民活動ゾーンに着目する。
- ⑤ 「コピー機」「作業台」「作業用カッター」等の項目があり、これらは住民活動に関わる備品となる。

このように図1より、公民館におけるロビー空間に求められる機能と空間の関係、行為の内容などを確認することが出来る。

4-2 動作空間関連図の考察

既存のロビー空間から15の動作空間が抽出できた。

写真1に示した北九州市高槻公民館の例で見てみると、自動販売機は空間領域の機器備品ゾーンに存在し、これに対応する行為として機能領域の「飲み物を買う」が当てはまる。そこから想起される行為として、休憩や談話等がある。自動販売機は飲食交流を促す機器であり、長時間利用に有効的である。

また奥の方には、休憩に用いるテーブルとは異なるテーブル（作業台）が置かれている。これは空間領域の住民活動ゾーンに存在し、これに対応する行為として、機能領域では「作業する」「工作する」等の行為が当てはまる。ここでは、子供やサークルの人たちが作業をしたり、場合によっては、隣の本棚から本を持ってきて読書をするなどの行為が想起される。

その他にも雛人形は季節の飾り物として、親しみやすい雰囲気を出し、血圧計は施設利用時に健康状態を確認していくなど、様々な行為が存在している。

このように、公民館のロビー空間では多くの行為が展開され、待ち合わせや休憩など単純な

機能構成のロビー空間とは全く異なるものである。



写真1 北九州市高槻市民センターのロビー

5. まとめ

本研究から得られた事をまとめると以下の通りである。

- ① 公民館のロビー空間は多機能性を持った目的空間として存在している。
- ② 公民館ロビーでは、多種多様な動作空間が展開されている。これは公民館の多面性の表出であり地域によって差異が見られる。
- ③ 公民館のロビー像は多様であり、画一的な施設型は存在していない。

公民館のロビーは、ロビー空間の概念を超えて変容している。これは、多様な施設の様相がロビー内で展開されていることによる。この空間はロビー空間として捉えるのではなく、新たな施設空間として再確認する必要がある。

〔注〕

- 注1. 原広司著：空間—機能から様相へ 岩波現代文庫
注2. 社団法人日本建築学会編：建築設計資料集 3 単位空間 I pp.59
丸善株式会社 1980.07.25
注3. 社団法人全国公民館連合会編：公民館のあるべき姿と今日的指標・総集板 1982.02.10
横山宏、小林文人編：公民館史料集成（株）エイデル研究所 1986.05.28
小和田武紀編：公民館図説 岩崎書店 1954.11.25
注4. 国民生活審議会 コミュニティ問題小委員会編 コミュニティ生活の場
に置ける人間性の回復—報告書 1969

〔参考文献〕

- 1) 社団法人全国公民館連合会編：全国公民館名簿(平成17年度版) ぎょうせい 2005.0608
- 2) 社団法人全国公民館連合会編：特集 世界が目！公民館 月刊公民館 (第598号) pp.3～pp.24 2007.03.01
- 3) 日本社会教育学会編：現代公民館の創造 公民館50年の歩みと展望 pp.86～pp.99 株式会社東洋館出版社 1999.09.15
- 4) 日本公民館学会編：公民館・コミュニティ施設ハンドブック (株)エイデル研究所 2002.03.03
- 5) 多田豊：地域公共施設の再編成に係るコミュニティ基幹施設の建築計画に関する研究
- 6) 平成20年度「公民館の国際発信に関する研究」海外のコミュニティ学習センターの動向にかかわる総合調査研究 報告書 財団法人ユネスコ・アジア文化センター 2009.03.10

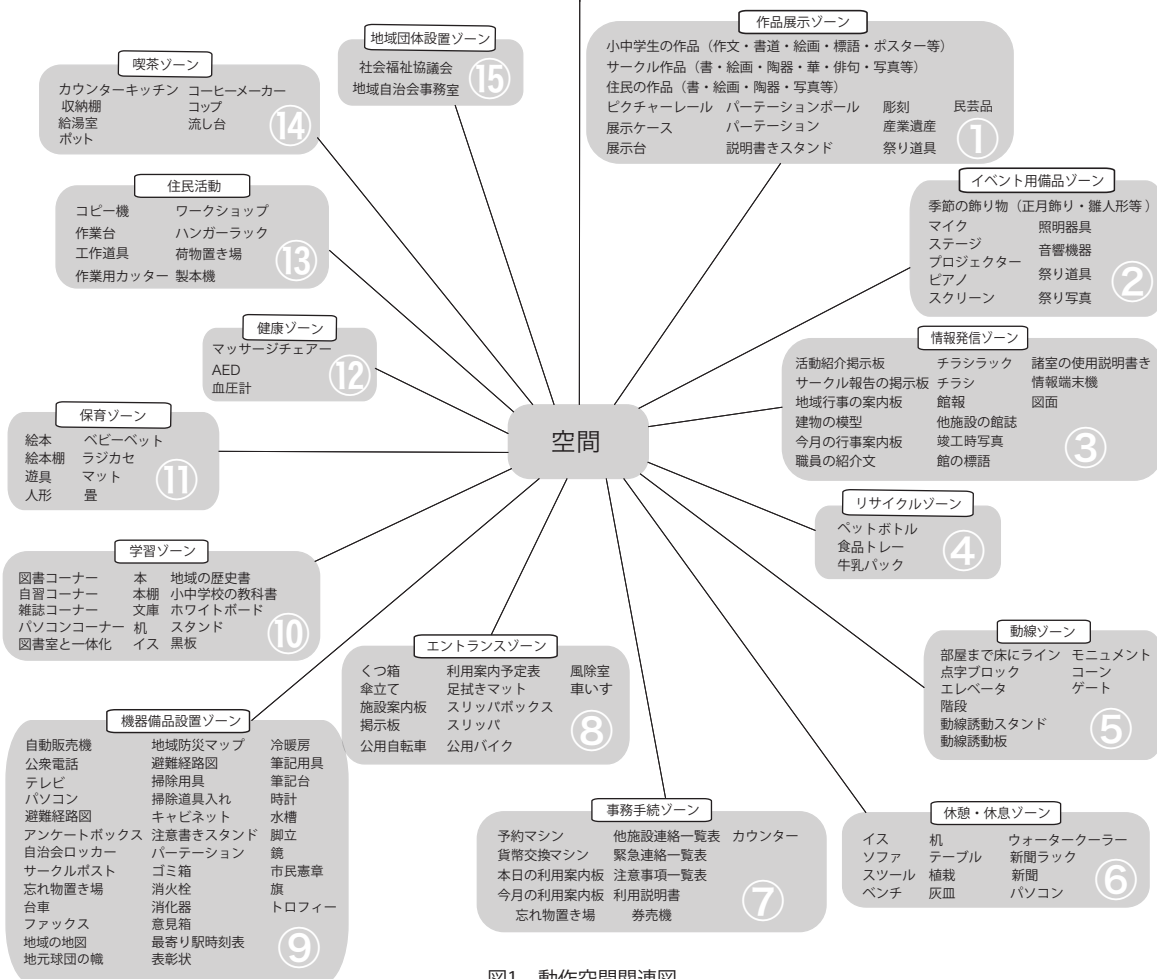
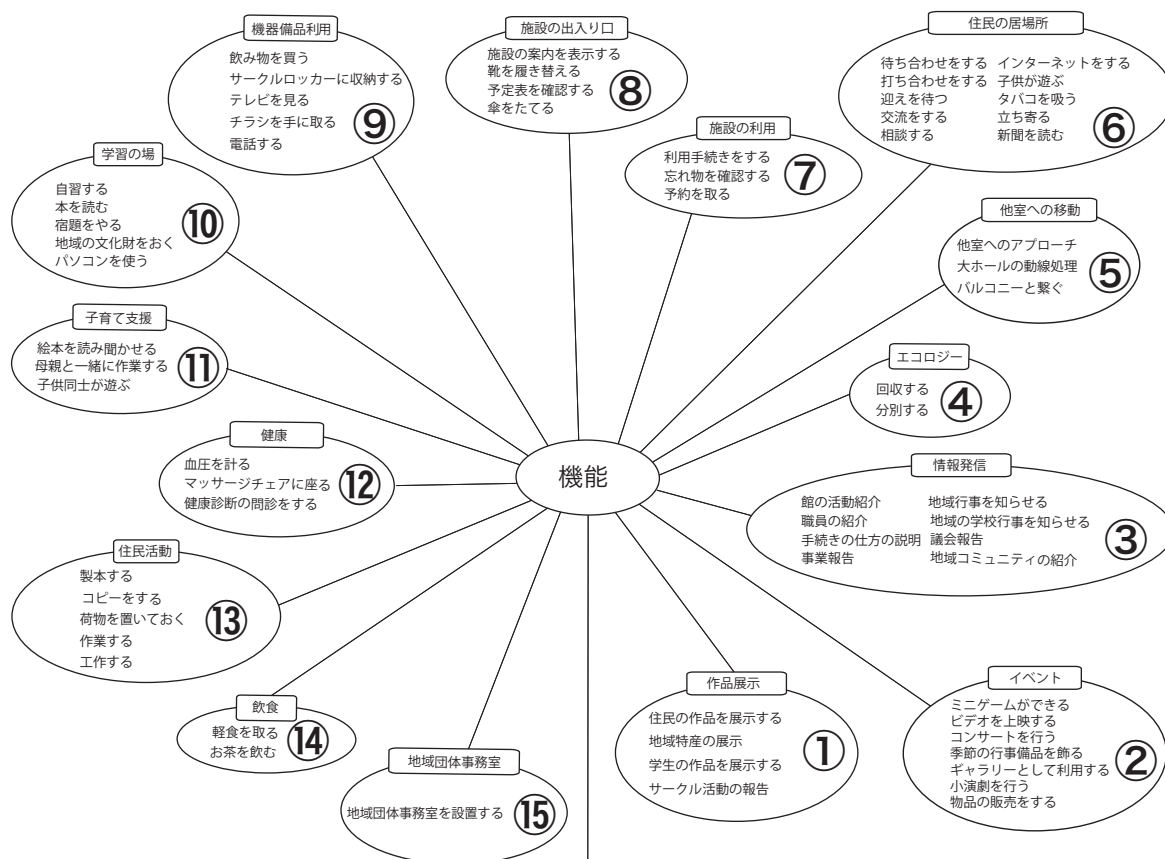


図1 動作空間関連図